

## 暴言と暴力を受けたスタッフの心理的影響と フォローの必要性についての検証

医療法人社団 五稜会病院  
○山北 豊 後藤 小百合 加藤 抄苗 高田 直美  
齋藤 恭央 鈴木 大輔 星野 美栄子

## はじめに

近年、保健医療の現場では医療従事者に対する暴力行為が増加しており、世界的な問題となっている。五稜会病院急性期治療病棟の現場においても患者から暴言と暴力を受けた経験をもつスタッフは少なくない。

サポート体制の確立が必要

## 研究目的

暴力行為を受けた看護師がどのような思いや感情を抱えていたか、どのようなケアを受け、望んでいるかを知り、今後の具体的な支援や方法を検討するため。

## 研究方法

1. 研究対象: 急性期治療病棟に勤務する看護師22名
2. 研究デザイン: 調査研究
3. データ収集方法: 独自にアンケート用紙を作成、対象者に質問
4. データ分析方法: 集計結果をコード化しコード一覧表を作成。コードの類似性と相違性に基づき、カテゴリーを作成し分析
5. 研究期間: 201X年Y月～201X年Z月
6. 倫理的配慮  
アンケート用紙への記載内容や調査への参加拒否により不利益が生じないこと、アンケート内容は本研究以外では使用しないことを説明した。また、対象者個人が断定できないよう工夫し、当院倫理委員会で承認を得て実施した。

## アンケート結果の報告(1)

### ○回答数と暴言や暴力体験の有無

22名中17名の回答を得た

『暴言や暴力を受けたまたは目撃したスタッフ』は17名中16名



## アンケート結果の報告(2)

1. 暴言や暴力を受けたときの感情とその後の看護への影響 (図1参照)
2. 暴言や暴力を受けた後にどのようなフォローを受けたか (図2参照)
3. 暴言や暴力を受けた後にどのようなフォローを受けたか (図3参照)

## 暴言や暴力を受けたときの感情とその後の看護への影響

図1

カテゴリー	サブカテゴリー	データ
ネガティブな感情からのケア	自責的な感情	自分の対応が悪かったのか
		自分に非があったのか
		不意にされたこと周囲のスタッフに迷惑をかけた事への申し訳なさ 頭が真っ白になり行動が出来なくなる
	恐怖感、不安	怖い
		身の危険を感じる
	関わりが困難	話す距離を考えるとなくなった 必要以上に防衛的になってしまう 対象のことを常に注意している状態 暴力を受けたスタッフ、即ちの患者をどうするか困った
患者への陰性感情	関わりたくない	
	近づきたくない	
再発防止を意識したケア	気持ちの切り替え	受け持たない、複数名で関わった いらっしやが、病気のせいだと考えた
	再発防止への考察	暴力を受けたくない、立ち位置や距離を考えた 話し方を気をつけた。複数名で関わるようになった
	行動の振り返り	何が気になって暴力に至ったか

## 暴言や暴力を受けた後にどのようなサポートを受けたか

図2

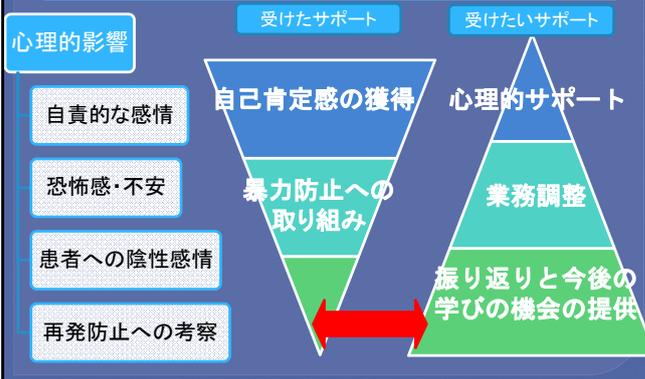
カテゴリー	サブカテゴリー	データ
自己肯定感の獲得	安心できるような声かけ	「大丈夫」と声をかけられた 周りのスタッフに声をかけられる
	自分のケアを肯定されたこと	「悪くないよ」と声をかけられる 相手の問題だったと客観的に言ってもらえた
	辛さの受容	同僚スタッフに受容的に話を聞いてもらった
	身体の心配	病院へ行くかどうか身体の心配をされた
暴力防止への取り組み	患者を回避出来るようなサポート	対応時は一緒に行動してもらう 受け持ちをはずしてもらう
	患者への内省の促し	周囲のスタッフが、患者へ内省を促すはたらきかけをしていた 病状の一因であることを説明していた
	今後の対応、学びの機会	場面や対応についての振り返り
	主治医への働きかけ	上司らが主治医と掛け合い、治療の方針の修正を働きかけた

## 暴言や暴力を受けた後にどのようなサポートを受けたいと思うか

図3

カテゴリー	サブカテゴリー	データ
振り返りかえりと今後の学びの機会の提供	自己の振り返りかえり、学びの機会	改めて振り返る場を作ってもらったほうがよい スタッフのケアという視点を重視した振り返りの場所をもっと欲しい 今後、同様の場面に遭遇したときにどうしたら良いかの話し合いの場を設けてもらう
		対処方法
	危険回避方法	暴れる患者の移送方法など
身体的、精神的ケア	不安のある仕事	不安な仕事はしたくない 精神的なサポート
	精神的なサポート	無条件に話を聞いて受け止めてくれるようなサポート 自分自身の行動の肯定をして欲しい
	身体の心配	怪我をしたら病院受診したい
暴力からの回避	対象との関わりをしないですむ	被害を受けたスタッフに押し、守られるような介入をして欲しい その患者に接しないようにサポートして欲しい 他スタッフが代行してくれたら距離を取れるよう配慮して欲しい

## 考察



## 結論

1. 自己肯定感が得られる精神的サポート
2. 暴言や暴力行為をした患者と距離がとれる業務調整
3. 暴力回避スキルを獲得できる学びの機会の確保